

ウミガラス保護増殖事業の実施状況および実施計画（案）

保護増殖事業計画（H13. 11. 30）	H29年度 実施計画	H29年度 実施結果	H30年度 実施計画（案）
<p>第1 事業の目標 ウミガラスは、北半球寒冷海域に分布し、北海道沖合島嶼を繁殖地南限とするウミスズメ科の海鳥である。本種は、島嶼の断崖にある岩棚などで集団繁殖するが、近年生息環境等の悪化により、我が国における生息個体数が急激に減少している状況にある。 本事業は、本種の生息状況等の把握とモニタリングを行い、その結果等を踏まえ、本種の生息に必要な環境の維持・改善及び生息を圧迫する要因の軽減・除去等を図ることにより、本種が自然状態で安定的に存続できる状態になることを目標とする。</p>			
<p>第2 事業の区域 主として北海道沿岸(天売島等)における本種の分布域</p>			
<p>第3 事業の内容 1 生息状況等の把握・モニタリング 本種の保護増殖事業を適切かつ効果的に実施するため、以下の調査を行う。 (1) 生息状況の把握・モニタリング 本種の分布域において、繁殖期及び非繁殖期に陸域や海上からの観察等により、本種の分布や繁殖状況等生息状況の動向を継続的に把握する。 また、生息情報の収集、整備に努める。</p>	<p>①赤岩対崖の繁殖地内カメラを稼働(交換・メンテナンス・改良)する。 ②渡りや飛来状況調査を実施する。</p>	<p>①4月20日に赤岩対崖繁殖地内にカメラを設置・起動した。 ②赤岩対崖を中心に、飛来状況確認調査を行った。</p>	<p>①赤岩対崖の繁殖地内カメラを稼働(交換・メンテナンス)する。 ②渡りや飛来状況調査を実施する。 ③ウミガラスの羽や糞、卵殻などの残滓の有無を回収し、遺伝子分析の実施を行い、他地域との遺伝子多様性の確認などを行う。</p>
<p>(2) 生物学的特性の把握 標識の装着による個体識別、ラジオトラッキングやデータロガーによる行動解析等の手法を活用し、繁殖期及び非繁殖期の行動及び採餌海域等を把握する。 また、本種の食性、捕食者等を含む本種を取り巻く生態系の構造の解明等に関する調査研究を進める。</p>	<p>①生態的情報の収集 ②漁業関連情報の収集 ③ハシブトガラスの個体数調査</p>	<p>①②国内外の文献を収集した。 ③ハシブトガラスの確認数は159羽(10月)であった。</p>	<p>①生態的情報の収集 ②漁業関連情報の収集 ③ハシブトガラスの個体数調査</p>
<p>(3) 生息好適環境及び生息圧迫要因等の把握 上記(1)及び(2)の結果を基に、本種の生息に適した環境を把握するとともに、個体群の維持に影響を及ぼすおそれのある要因及びその除去に必要な対策等に関する調査研究を進める。</p>			
<p>2 生息地における生息環境の維持・改善 本種の自然状態での安定した存続のためには、営巣地として利用される断崖の岩棚等本種を取り巻く生態系全体を良好な状態に保つことが必要である。 このため、上記1の結果等を踏まえ、本種の生息環境の悪化や個体数減少等への効果的な対策を検討し、デコイ等による営巣地への定着の促進、営巣環境の整備、捕食者・天敵等による被害の防止及び軽減等の措置を講ずることにより本種の生息に適した環境の維持・改善を図る。 また、本種は海域で潜水して採餌する特性から上記1(3)の結果を踏まえ、必要に応じ採餌海域における保護対策の手法について検討を進める。</p>	<p>①3月から音声装置を設置</p>	<p>(赤岩対崖) ①3月18日に音声装置を可動させた</p>	<p>①3月から音声装置を設置 ②デコイの新規設置と老朽したデコイの交換</p>
<p>3 飼育下での繁殖 本種の繁殖は、生息地における野外個体群の維持・拡大を基本とするが、野外個体群のさらなる減少に備え、飼育下での繁殖について検討する。さらに、飼育下で生まれた個体の生息適地への再導入の可能性等を検討する。</p>	<p>①エアライフルによるウミガラス繁殖地周辺のオオセグロカモメとハシブトガラスの捕獲の継続</p>	<p>●捕食者対策 ①エアライフルにより、オオセグロカモメ24羽とハシブトガラス68羽を捕獲した。</p>	<p>①エアライフルによるウミガラス繁殖地周辺のオオセグロカモメとハシブトガラスの捕獲の継続</p>
<p>4 生息地における監視等 本種の生息地への不用意な接近等個体群の維持に悪影響を及ぼすおそれのある行為を防止するため、生息地における監視等を行う。</p>	<p>・天売島の鳥獣保護区管理員による監視の実施を継続 ・ウミガラス誘因対策の調査時などに現地の監視を実施継続</p>	<p>・天売島の鳥獣保護区管理員による監視の実施 ・ウミガラス誘因対策の調査時などに現地の監視を実施</p>	<p>・天売島の鳥獣保護区管理員による監視の実施を継続 ・ウミガラス誘因対策の調査時などに現地の監視を実施継続</p>
<p>5 普及啓発の推進 本種の保護増殖事業を実効あるものとするためには、各種事業活動を行う事業者、関係行政機関及び関係地域の住民を始めとする国民の理解と協力が不可欠である。このため、本種の生息状況、保護の必要性及び保護増殖事業の実施状況等に関する普及啓発を推進し、本種の保護に関する配慮と協力を呼びかける。また、関係地域において本種についての理解を深めるための活動を行うこと等により、地域の自主的な保護活動の展開が図られるよう努める。 さらに、本種の生息地域(採餌海域を含む)での経済活動との共存を図るため、関係機関、関係者の協力を得て、活動の配慮事項について取りまとめ、関係者への普及啓発に努める。</p>	<p>・HP、掲示物、電話、ファックス、報道、直接対話、講話などで情報発信・交換し、地元住民、関係者、羽幌町、北海道等との情報共有を進める。</p>	<p>・掲示物・回覧物を作成し、北海道海鳥センター・羽幌・天売フェリーターミナル、天売海鳥観察舎などに掲示し、直接対話でも情報を提供した。 ・H28年度の繁殖映像を取りまとめたデジタルフォトフレームを島内の観光施設などに貸し出した。 ・観光船、観光バス、漁師、天売島海鳥研究室などからウミガラスの情報をもらった。 ・新聞社等への情報提供を頻繁に行った。 ・北海道海鳥センターのfacebookに、ウミガラスの繁殖状況の映像を定期的に更新した。 ・天売島の島民などを対象において報告会を実施した。 ・天売猫関連のイベントにおいて、ウミガラスのデコイや繁殖状況を紹介するブースを設置した。</p>	<p>・HP、掲示物、電話、ファックス、報道、直接対話、講話などで情報発信・交換し、地元住民、関係者、羽幌町、北海道等との情報共有を進める。 ・葛西臨海水族園と連携を行い、域外保全の促進や飼育下での情報提供などを進める。</p>
<p>6 効果的な事業の推進のための連携の確保 本事業の実施に当たっては、事業に係る国、北海道及び関係市町村の各行政機関、本種の生態等に関する研究者、地域の住民等の関係者間の連携を図り、効果的に事業が推進されるよう努める。</p>			